

令和4年度 第3回泉南市教育問題審議会 会議録（案）

日 程	令和4年5月19日（木）
時 間	15時45分から16時53分まで
場 所	泉南市立西信達中学校 多目的教室
出席委員	11名
欠席委員	7名
欠 員	3名
案 件	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各小中学校とのオンラインによる意見交換会について</li> <li>・その他</li> </ul>
事務局出席者	教育長 教育部長 教育部次長 教育部参事兼教育総務課長 指導課長 人権国際教育課長 教育総務課課長代理 教育総務課総務係長 教育総務課総務係主任
関 係 者	27名

## 15時45分開会

○会長 オンラインでお集まりの皆さん、どうもありがとうございました。今から今年度、令和4年度第3回泉南市教育問題審議会の意見交換会、オンラインでやりたいと思います。

本題に入る前にまず、今年度になりまして審議会の委員に交代がありましたので、今、御報告させていただきます。

まず、泉南市の校園長会の代表、それから一丘中学校区の保護者の代表が交代しておりますので御報告いたします。

それから今日の会議についてですが、G副会長、D委員、J委員、M委員、L委員、それからU委員が、所用のため欠席されています。それからP委員が都合で早退なさっています。後、泉南中の校区の保護者の代表、市の職員2名、合計3名が欠員ということになっておりますが、委員総数21名のうちの11名に御出席いただいておりますので、泉南市教育問題審議会条例施行規則第2条第2項に定める要件の委員の過半数、ぎりぎりですけれども、過半数の出席をいただいております。ということで、今日の審議会は有効に成立していることを御報告いたします。

それから、今日の第3回審議会は、泉南市立西信達小中学校の視察及び西信達中学校内での会議開催ということでやらせていただいておりますが、学校では現在保護者の来校制限、コロナの関係等で設けておりますので、今日の会議に関しては傍聴はお認めいたしていません。傍聴はないのですが、意見交換会の会議録を作成して公表するというので、この審議会の透明性を確保していきたいと考えております。

次に、配付資料の確認をお願いいたします。

まず、会議次第、それから令和3年度第2回泉南市教育問題審議会会議録の素案、それから資料が幾つかあります。資料No.1、視察実施概要、先ほどの西信達小・中学校の視察で活用いたしました、泉南市公共施設カルテ、教育指導の計画、西信達小と西信達中の分、西信達小学校の学校日より、今年度の4月号、それから5月号、同じく、西信達中学校の方の学校日より、これは4月号です。それから資料の2番ですが、オンラインによる意見交換会の実施要項、資料の3、オンラインの意見交換会の参会者一覧、名簿ですね。それでこれで最後になりますが、資料4として各小・中学校の訪問日の一覧です。学校視察は今回西信達の小・中でお引き受けいただきましたけれども、ほかの学校についても訪問日を設けていただいております。その一覧です。また、会議次第及び資料の3、オンライン意見交換会参加者一覧については、参加者の変更等の修正がありましたので、修正後の資料をお手元に配付をさせていただきます。ちょっとたくさん資料があったのですが、御確認いただけただけでしょうか。もし、ない資料があったら今、言っていただければと思いますが大丈夫でしょうか。

では、早速次第に沿って議事を進行していきたいと思います。

まず、前回の第2回泉南市教育問題審議会会議録の確認についてです。お手元に会議録の素案を配付させていただきます。つきましては、内容を御確認いただきまして、もし加筆修正がありましたら令和4年5月26日木曜日の午後1時までに教育委員会事務局の教育総務課まで御連絡いただきますようお願いいたします。連絡先については、今日の

資料の方に教育総務課の電話、メールアドレスが載っています。それから、会議録の内容修正については、私とあとG副会長とに一任していただきまして、それで2人で相談して修正した会議録を市のウェブサイトにはアップロードするという取扱いでいきたいと思いません。

会議録については以上です。

次に、今日の案件であります、会議次第を御覧ください。(1)西信達小の視察、意見交換、それから(2)西信達中の視察及び意見交換については、今まで実施しましたので、(3)のところからです。各小中学校とのオンラインによる意見交換についてを議題とさせていただきます。意見交換のテーマについてですが、事前に皆さん方にもお知らせしていますけれども、資料2にありますように、2つあります。1つ目は、学校の小規模化が教育活動に与える影響、それから2つ目が、泉南市が進めている小中一貫教育について、これを大きな柱として意見交換していきたいと思えます。順番としては資料1の視察実施概要の真ん中あたりに書いてありますように、1番目、「学校の小規模化が教育活動に与える影響について」、これについて小学校2校からお話をいただきまして、その次に「泉南市が進めている小中一貫教育について」、これについて4中学校区から御報告いただきます。その後で皆さん方と意見交換を行っていくということにしたいと思えます。尻尾、今日の終わりが16時40分という予定ですので、どうかその辺御理解いただきまして効率的な運営に御協力いただきますようお願いいたします。

ちょっと前置きが長くなってしまいましたけれども、では早速「学校の小規模化が教育活動に与える影響」、これについて小学校から御報告いただきたいと思えます。

まず初めに、雄信小学校からお願いします。じゃあ、よろしく願いいたします。

○雄信小学校 よろしく願いいたします。

○会長 はい。

○雄信小学校 雄信小学校です。よろしく願いいたします。

私たち雄信小学校のメリットとデメリットを挙げていきたいと思えます。子どもの視点、保護者の視点、地域の視点、学校・教職員の視点のこの4つでメリット・デメリットを挙げさせてもらいます。

まず、子どもにとってのメリットです。異学年交流が自然とでき、良くも悪くも上級生の姿や行動が受け継がれやすい。もう1点ありまして、学校全部の先生から見守られていると感じやすい。これがメリットで、デメリットは1つ、子どもにとってはクラス替えがなく、一度できた関係を変えるには時間と工夫が必要だと思えます。もちろん教職員の力も重要になると思えます。

次、保護者にとってのメリットです。子どもについていろいろな職員と話せる。子どもの数が少ないので、その子どもについて知っている先生が多いため、本校でも1人の児童に対していろいろな先生が話し合っている場面をよく見ます。もう1つが、子どもをたくさん先生の先生から見守ってもらっていると保護者は感じやすいと思えます。しかし、保護者のデメリットとしては、ほかの家庭と関係が悪くなると居づらい。もう1つは、PTAに当たる確率が高いということだと思えます。

地域についてです。地域はメリットしかちょっと思いつかなかったのですが、学校がその地域にあることで地域の雰囲気元気になると思います。もう1つは、特に本校は地域の方にお世話になっているのですけれども、地域の踊りや伝統を子どもたちにつないでいけるということが地域にとってのメリットだと思います。例えばうちであれば、11月に文化祭のような雄信まつりを行っているのですが、20年以上前から男里地区の男里ソーレーサーというのを子どもたちが地域の人に教えてもらいながら、雄信まつり当日に踊っています。また、総合的な学習の一環としてディスカバーという地域学習を行っているのですが、発見という意味がありまして、仕事についてもお話を聞いたりするチームもあれば、地域の昔話を聞く子どもたちもいますので、地域の人には子どもたちにその地域に昔どんなことがあったのかというのを伝えられると思います。

最後、教職員・学校にとってのメリットです。各学年1クラスのため、担任の個性、オリジナル性を生かした指導やクラスづくりがしやすいと思います。もう1つは、職員全員で困っている職員の相談に乗りやすい。学年を超えた相談が自然とできる。先ほどの子どもとかぶりますが、1人1人の児童についても職員全員が分かっているため、相談しやすく、みんなで見守ることができるというのがメリットだと思います。

最後、職員にとって、学校にとってのデメリットは、1人1人の教職員への分掌負担が大きい。もう1つは、学年が1クラスなので、学年行事や教科指導の相談をする相手がいなかったりすると思います。一応、本校は、学年1クラスなのですが、担任外の先生を学年付にして、なるべく担任1人で抱え込まないような体制を学校としてはとっているのですが、そこがデメリットかなと思っています。

以上、雄信小学校からでした。ありがとうございました。

○会長 どうもありがとうございました。質問等については、また後ほど一括してお受けすることにします。

じゃあ、続いて、新家東小学校からお願いします。

○新家東小学校 こんにちは。新家東小学校です。よろしくをお願いします。

それでは、報告させていただきます。本校は、昭和56年に新家小学校と分かれ、開校して40年余りたった小学校です。開校した昭和56年は、全校児童が285人でスタートし、平成元年には426人の児童数で1学年3クラスの学年もありました。しかし、その後減少していき、平成30年には200人を切り、令和4年の現在は全校児童173人の規模になり、1学年1クラスが続いています。

ではこれから、学校の小規模化が教育活動に与える影響について、児童の面、教職員の面、PTA・地域の面からメリットやデメリットについてお話させていただきます。雄信小学校と重なる部分もありますが、お聞きください。

まず、児童の面でのメリットですが、入学してからずっと同じメンバーで過ごすので、相手のことを理解しやすいという面があります。また、縦割り掃除や仲よし班の活動など、異なった学年での活動が頻繁に行え、より密接に違う年齢の人とのつながりを強めることができるという面もあります。行事を行う際は人数が少ない分、1人1役の体験ができるというメリットもあります。児童の面でのデメリットですが、どうしても友達関係が固定

化されます。友達グループができるとなかなかそのグループから別のグループへ移ることが難しく、グループ内でトラブルが起こったとき、子どもは自分の居場所を見つけることができず、孤立することもあります。1学年に複数のクラスがあれば、新しい学年になってクラス替えを行い、新たな友達関係を築くことができるのですが、1学年1クラスなので、ずっと同じ集団が続いてしまう傾向が強いです。

次に、教職員の面からですが、メリットとして、小集団ですので、意思統一が図りやすかったり、親密な雰囲気づくりには適していると思うのですが、1学年1クラスのため、担任の先生は学級経営や教材研究について同じ学年の教師同士の相談ができず、1人で全て行わなければなりません。校務分掌でも同じことが言え、1人にかかる負担が大変大きくなっています。また、会議を行うにしても1人で複数の役割を持っているため、分掌ごとに分かれての会議も開催しづらくなります。そのほか、研修などで校外へ出る先生が複数いる場合、補欠の体制を整えるのが難しいという状況です。

最後に、PTA・地域の面から見ますと、メリットとして、本校は地域の方が毎日登下校の見守りをしてくださっており、1人1人の顔を覚えてもらって、丁寧に声かけをいただいています。デメリットとしましては、児童数の減少が続き、PTAの役員の担い手が足りなかったり、地域によっては子ども会も成り立たなくなったりしているということを知っています。

以上、新家東小学校の状況を説明させていただきました。ありがとうございました。

○会長 どうもありがとうございました。今、雄信小学校、それから新家東小学校の2校から御報告いただきました。どちらも1学年1学級、単学級ということで、小規模化が泉南市の中でも進んでいる学校であったかと思います。

それでは、引き続きまして今度は、2点目の泉南市が進めている小中一貫教育について、今度は中学校から御報告いただきたいと思います。

まず、泉南中学校からよろしく願いいたします。

○泉南中学校 泉南中学校です。よろしく願いします。

小中一貫についてですけれども、聞こえていますか。

○会長 はい。大丈夫です。聞こえています。

○泉南中学校 泉南中学校区の就学前施設、保育園・こども園・幼稚園も含めて小・中学校が連携を図っています。SCSという小中一貫の取組を通して、昨年度は目指すハタチ像を再構築するために、全教職員がオンラインでミーティングをして、子どもの姿からつきたい力について意見を出し合う中で、目指すハタチ像を練り上げる活動を行いました。今年度はコロナ禍でやれていなかった相互交流を通して、小学校の横のつながりであったり、そこから中学校へのつながりであったり、連携を進めるための体制づくりを検討していくつもりです。

以上です。よろしく願いします。

○会長 どうもありがとうございました。

では、続きまして、西信達中学校からお願いいたします。

○西信達中学校 西信達中学校です。

本校の概要です。地域の概要は、本校の校区は泉南市の北西部に位置し、西側は大阪湾、東側は府道204号線、北側は田尻町に隣接しています。校区は1保育園、1幼稚園、1小学校、1中学校で構成されていて、すごくまとまりが強い地域です。もともとは漁業や農業が中心で、地域としてのきずなが強いところでありましたが、近年新興住宅や大手のスーパーが建設されて、地域の生活環境が大きく変容しています。他地区からの転入も増えています。目指すハタチ像が「たくましく生き抜き、つながる西信っ子」をテーマに取り組んでいます。令和3年度は小中一貫教育の推進に当たって、何を一貫して行っていくのかということが実行された1年間でした。特に9年間を見通して身につけさせたい資質能力を育むための現段階で、小学校・中学校でどのような指導をするか。そのために体験・経験させるべきことは何かを中心に、教科・領域において検討しました。令和3年度の実践としまして、小・中学校教職員合同会議、教科・領域分科会に分かれて会議を行いました。また、小・中学校教職員共同学習会、人権教育、防災学習、英語科教員による外国語授業参観を行っています。そして、小・中学校児童生徒交流会で、税関の講演会では、小学校5年生、中学校体験では、小学校6年生の児童に中学校へ来てもらっています。また、反対に職業インタビューで中学校2年生が小学校に出向いています。

それを踏まえまして、令和4年度の方策としては、つけたい力、学び、心、体、ふるさとを軸に、9年間で育む学びに向かう心の育成を図りたいと思います。義務教育学校を意識したチーム編成、4つの部会、生活指導、支援教育、学力向上推進、人権道徳教育、この4つを軸に小・中連携の教育活動を実践していきます。また、9年間の継続的な取組の構築として、小・中学校共通の学び方や学習スタイルの設定、そして小学校・中学校から教員の相互乗り入れの指導の導入、そして最後に地域とともにある学校づくりの推進、地域フェスティバルや防災学習、地場産業、職場体験学習等地域理解の学習も行っていきたいと思います。

今後は、子どもの実態や地域の実情を考慮して、義務教育9年間のグランドデザインの準備期間です。小規模校ならではの個に応じたきめ細かい指導、自分たちで学びを進め、深める学習の確立、地域に愛着や誇りを持った豊かな心の育成を小・中で取り組んでいきたいというふうな予定です。

以上です。

○会長 どうもありがとうございました。

続きまして、今度は一丘中学校からお願いいたします。

○一丘中学校 一丘中学校校長です。よろしくお願いします。

本校の小中一貫教育は、チーム一丘という名前をつけてやっています。そこには校区の小学校の先生方だけではなく、あおぞら幼稚園の先生方も一緒に活動に参加していただいています。1番大きな特徴は、小学校で教科担任制になっていないということもあるので、小学校の先生、中学校の先生、幼稚園の先生が一緒に活動するために、このチーム一丘では校務分掌をそろえるということを最大の目標にしています。8つの部会をそろえていて、その部会に併せてそれぞれ会議を行って連携を図るようにしています。月に2回の事務局会に加えて、年に2回から3回の全体会のときには幼稚園の先生、それから小学校の先生、

中学校の先生が8つの部会に分かれて会議を行っています。そこで行われる会議で1番の検証軸にしているのは、11月14日に行われる中学校での体験入学、ここで子どもたちをどう見ているかということをも1つの目標にしてやっています。ですから、8部会の中でそれぞれの部会で支援教育はどうか、外国語教育はどうかというようなことを話し合っ、11月14日の体験入学で実際にどれだけできたかということを検証すると、そういう形をとっています。

また、昨年から1つ大きな取組をしているのは、中学校の子どもたちが小学校に出向いて、放課後の学習会で勉強を教えるという取組も始めました。今年度は明日、早速一丘小学校に本校の中学生が放課後学習に20人から30人の有志が集まりまして、子どもたちに勉強を教えに行くということをやっています。そんな取組を今年も続けていこうと思っています。

以上です。

## ○会長

はい。ありがとうございます。それでは、最後になりましたが、信達中学校から御報告をお願いいたします。

○信達中学校 信達中学校です。よろしくお願いします。

では、本校による小中一貫教育、簡素にまとめた分で報告させていただきます。

主に5点ですけれども、昨年度は実施させていただいています。やはりコロナ禍の影響がありましたので、事務局部会はオンラインでの打合せが主流となりました。それから全教科、それから領域の集合型での活動がやはり小学校・中学校で事情が異なるため、集まるのが難しかったために、特に教科を絞って外国語、それから英語科、それからキャリア教育の方を重点化して進めてまいりました。それから特に英語科、外国語では、JETに関する情報共有を行いまして、市教育からの情報提供も併せて共同で進めてまいりました。

あと、キャリア教育では、特に校務についての若い先生を中心にキャリア教育の講義型の研修も実施しました。あと、特に教務の先生中心の事務局部会では、キャリアパスポートの統一であったりとか、小学校6年生の体験入学の計画及び実施についても相談、話し合いを進め、実行に移しました。それから、実際には12月に小学校3校から同日同時刻に集まってもらって、信達中学校での体験入学を実施しています。それから、これは信達小学校と本校とのクラブ交流で、陸上部が信達小学校に出向いてクラブ活動を一緒に行ったりとか、準備運動をしたりとかということで、クラブ交流の方も進めてまいりました。時系列には、4月はGoogle Meetによる打合せ、それから5月は担当者会の名簿作成、活動計画の作成、6月はJAEの担当の方とキャリア部推進のために研修を企画しました。それから、12月はJAEによるキャリア教育推進の理解の研修であったり、先ほど申し上げた6年生の中学校体験入学、1月にはその体験入学の振り返りについて小学校と中学校のそれぞれの先生方で共有の方も行いました。それから、2月にはJAEさんによるキャリア教育理念の研修、これは主に中学校になるのですが、それからあと、要録の授受が3月末に行われますので、その関係からキャリアパスポート保管の統一であったりとかイメージの共有の方も進めてまいりました。

以上です。

○**会長** どうもありがとうございました。今、4中学校区からそれぞれ御報告いただきました。

それでは今までの小学校、それから中学校の御報告を受けまして、皆さんから質問、意見等をお受けしたいと思います。最初に言いましたように、1つ目の意見交換のテーマが、「学校の小規模校が教育活動に与える影響」、2つ目が「泉南市が進めている小中一貫教育」ということでありました。1つ目、2つ目、どちらについても結構ですので、まずは何か御質問がありましたらお受けしたいと思います。いかがでしょうか。

もしなければちょっと補足説明をしていただきたいことがあるのですが、いいでしょうか。泉南中学校区で小中一貫のお話の中で、目指すハタチ二十像ですか、西信達中学校区でもそういうふうな言葉が出てきましたけども、これはなんでわざわざハタチというふうなお考えなのでしょう。小中一貫教育やったら15歳でいいんちゃうかというような考えもあり得るわけですけど、なぜあえてハタチというふうに考えているのか。ちょっとその辺のお考えを聞かせていただけますか。

泉南中学校区でなぜハタチなのか。

○**泉南中学校** 泉南中学校です。やっぱり中学校を卒業してゴールではなくて、社会に出る力をつけたいというところで15歳ではなくハタチで目指す像というところにこだわりました。地域に貢献して行ってほしいという思いであったりだとか、中学校を卒業してからは社会に出る高校を自分で1番初めに進路を選ぶというところがあったりだとかするので、決して我々3年間小・中見ていく9年間で終わりではなくて、社会人まで継続して育成を図っていくというところにこだわってハタチの再構築になりました。

○**会長** 補足ですか。じゃあ、お願いします。

○**人権国際教育課長** 泉南中学校のみじゃなくて、やはり4中学校ともに泉南市として目指すハタチ像というふうに決めております。今、泉南中学校の先生にもお話しいただいたように、中学校卒業というよりかは、こういう大人に育てていきたいという教職員全体で同じイメージを持つために、そのキーワード的にハタチ像というのを使っているところで、ハタチといったら大体成人・大人というイメージというところから、そういった言葉をキーワードにして中学校区ごとで作成いただいているというところがございます。

○**会長** よく分かりました。要するに、社会人として、大人としてどのような人になってほしいかということ中学校区として共通理解を作っていこうという、そういうお考えだということですね。はい。ありがとうございました。あと、皆さん方から御質問等ありましたらいかがでしょうか。なかなか出てこないかな。

じゃあ、よろしくお願いします。

○**E委員** 1つ、学校小規模化が教育活動に与える影響で、小学校の先生方から御意見をいただいた中でやっぱりデメリットであるとして出ている問題で、1学年1クラスで、その担任がその教育内容について相談できる場所がないという、そういうお話が何件かの小学校から出ていたと思うのですね。学年の縦の話で行くと、皆さんやっぱり1年生の先生になったりですね、4年生の先生になったりですね、あると思うのですね。それを全体

的にその教育委員会、泉南市が教育委員会としてその人のその先生の質の向上のためのその取組の研修やね。そういうことというのは横断的にできないのか。またそれと、子どもたちを通してその交流の場、それからそういうことを行っていくその地域を超えて、そういうことができないのかというその、デメリットのところに出ているその先生の問題と、それからその地域が小規模におけるその子どもたちへのその対人、もしくはコミュニケーション、それから地域活動のその変容化というのですか。小さくなってしまふことのないようなそんな取組は、何かこう考えていたり行動に起こしていたりということは今のところデメリットで出ているだけでなく、何かやっているのかどうかというのをちょっとお聞かせいただきたい。

○会長 ありがとうございます。これはどうでしょうかね。どなたか、オンラインの方でも、今こちらにいらっしゃる方でもどちらでも構いませんが、何か御発言がありましたらどなたからでも結構ですのでお受けしたいと思いますが、どうでしょうか。

じゃあ、お願いいたします。

○指導課長 先ほどの質問で、先生方がやはり相談できる場がないのではないかという。いろいろな日々の子どもたちとの接し方、生徒指導、学習指導も含めてのサポート的なことなのですが、教育委員会といたしましては、先生方の教員研修、各学校でも年間を通じて先生方の研修を企画、計画していただいて、それぞれのテーマに応じた研修をさせていただいているものと思っております。またもう1つは、そういった経験の浅い先生方を中心として学校教育アドバイザーということで各学校を回りながら、授業に対する悩み、生徒指導等の悩み、ふだんからの先生方との横横のつながりもある中で、さらに管理職の先生との話の中で具体的なアドバイスをさせてもらっているというようなことが活動としてございます。

もう1点の、子どもたち、地域を超えて何かできることはないのかということにつきましては、地域教育コミュニティー等、4中学校区の取組、いろいろ、このコロナ禍でなかなかこの1、2年は活動できていないのですが、そういったコミュニティーを生かした子どもたちを見守る活動ということで、各中学校区で工夫していただいていることは存じております。

私からは以上です。

○会長 どうもありがとうございます。学校教育アドバイザーというのは、どういう人がどんな活動をやっているのでしょうか。

○指導課長 お答えいたします。現在は市の職員として、経験としては校長先生の御経験をされたOBの方を市職員として任用し、各学校を訪問していただいております。学校教育アドバイザーというのは、そういった方を現在は2名配置しております。

以上です。

○会長 それは各校からの求めに応じて出張してもらいたい感じですか。

○指導課長 定期的に現在、回っていただいているということになります。相談に応じてはすぐ、御要望があればすぐ行かせていただく場合もございます。

○会長 はい。分かりました。

じゃあ、お願いします。H委員、お願いします。

○H委員 教育委員会からのお答えをいただいて、今、小学校からほとんどがメリット、デメリットのそれぞれの立場、それから対象児童それぞれのことを出していただいて、メリットについてはいいこと、しかしながらデメリットについては、問題提起と捉えてしまうのですね、私としては。その問題提起された問題について、今はどうしているのか。今後言えば、小中一貫校をしていくことで改善されるけれども、今現存として児童たちがおられるわけです。これに対して教育委員会として今、その未来像も含めて考える中で、今の現状、どういうふうに行われているのかなという質問です。

もう1つ質問させていただきます。泉南市が進めているもう1つの小中一貫教育ということですが、これは中学校の先生方からいろいろ御意見をいただいて、それぞれの取組について御説明いただいたわけですが、それぞれに特色があるのか、それとも泉南市として全体として行っている先ほどのハタチ像であるようなことがあって、今それぞれ説明していただいた中学校の特色と捉えていいのか、それとも全体はそれぞれ同じようなことを取り込んでいるのだけれども、報告された内容がそれぞれ違うのか。

例えば一丘中学校の取組はすごくいい取組をされているなと思った8部会という報告が出てきたと思うのですね。それから20人か30人、中学校から小学校へ勉強を教えに行くということをしているとかですね。あと別の中学校から、信達中学校のほうからですね、キャリアパスポート、その取組、それからクラブ交流という取組、それぞれその地域地域で違う取組、特色のある取組を御報告されたのか。それとも教育委員会として全体として先ほどのような全体の取組としてやっていること。そのすみ分けがちょっと分からないので教えていただきたいなど。

それでその中で、実際に問題としているところ。もしくはいいところ、悪いところから多分小中一貫校の話については中学校の方から今、取り組んでいる先進的な取組、また活動して良かった取組を御報告されていると思うのですが、逆に言うと、今考えている中でいろいろな問題点はないのかどうか。そこで生まれてきた小中一貫校に取り組んでいくために必要な責務というか、スケジュールというんですか、段階段階というのは、今の段階でどういうふうにお考えなのかちょっとお聞かせいただきたいと思います。

○会長 どうもありがとうございました。今、御質問があったのは、各中学校区で共通した取組、それからそれぞれの校区ごとの特色ある取組、両方あると思うのですが、そこをちょっと整理していただきたいということが1つありました。それからもう1つですね。今、御報告いただいたのは、何と言いましょうか。うまくいっている成果の面でありましたけれども、問題点なり課題としてどのようなものが小中一貫教育を進めていく上であるというふうに認識されているのか。これが2つ目であったかと思います。H委員、そんな感じでいいですか。ちょっと今の御質問についてお答えいただければと思いますが。どうしましょう。まずは教育委員会の方からいいでしょうか。

○人権国際教育課長 全市的な大きな方向性といたしましては、子どもの育ちと学びの連続性を作るという視点を持ちまして小中一貫教育にこれまで取り組んできております。その中で先ほども少し話に出ました目指す子ども像、目指すハタチ像というものを各中学校

区でしっかり設定して、そのハタチ像を目標に各学校区の特色ある取組、地域とのつながりであったり、地域の実態に応じた取組を組み込みながら目指すハタチ像に向けての子どもたちを育てていくという視点につきましては、各校区での特色あるものということになりますが、全体としては先ほど申し上げましたように、子どもの育ちと学びの連続性を作るという大きなキーワードの中で、小学校と中学校の進学、中学校に進学したときの戸惑いや段差といったものを解消するような取組を作っていくということが大きな方向性となっております。

以上です。

○会長 どうもありがとうございました。

目指すハタチ像というのは、それぞれの4中学校区で皆さんで考えているけど、その中身に関してはやっぱり各校区ごとに少しずつ特色が出てくるということだと思います。

それから、小中一貫教育を進めていく上で、課題なり問題点なりというのはどんなようなものがあると認識されているかというのは、その辺もちょっともしありましたらお願いします。

○教育部長 小中一貫教育を進める上での課題ということで、よく一般に市民の皆様とか、これまでに御指摘いただいたのは、例えば小中一貫校の一体校で小と中が同じ時間帯で同じように併存できるのかとか、中学生がおるところに小学校1年生の子が混じっていいのかとか、そういったところはよく御質問をいただくところでございます。そういったところは実際にこれまでも、正直本当にもう一体校化していった際の具体的なところでございますので、例えば今後視察も行っていただくところで見聞を広げていただいたということで一定御理解いただけるかとは思いますが、大きなところで小中一貫に関するそのデメリットとか、大きな課題というのは特には考えてはおりません。

以上です。

○会長 ありがとうございます。ちょっと現場の方からも率直なところをちょっと考えをもし聞かせていただければありがたいと思うのですが。手を挙げておられますね。

○西信達小学校 今日はありがとうございます。学校を再編した場合西信達小中義務教育学校となる可能性があるということで、西信達中学校の校長とこずっといろいろな話をさせていただいているのですが、課題ということではないとは思いますが、具体的にその小・中を一体化させてどんなふうに運営していくかということ言えば、時間割、チャイムなんかどうするのかとかね。45分と50分の時間差は必ずあるので、そういうところは先進校を見に行ったら何とでも解決できるような問題かとは思いますが、制服はどうするんだとか、小学校の卒業式はどうしたらええかとか、具体的に考え出したらいろいろな問題は出てきていると思います。西信達小中学校も今、いろいろな体験を共有したり、防災教育でも合同避難訓練をやったりというような、先輩方が残してくださったことを継承しながらやっていこうというのはありまして、先ほど西信達中学校の校長からありました盲導犬じゃないわ。あそこの何犬でしたっけ。まあ、そういう一緒に何かを見せていただくような、小学校から行って体験、そういうのはどんどんとやっていっているのですが、じゃあ6年間と3年間でどう一貫させるか。目指すハタチ像を、学びの連続性と言

ったけれども、どんなふうに学びを連続させるのか。というようなことはまだまだいろいろな先進校を視察して、また今、文部科学省からも個別最適な学び、私も先ほどの小学校でふれあい教育の話をちょっとさせていただいたのですが、そんなことも含めてこれから勉強していかなあかなとは思っております。

以上でございます。

○会長 どうもありがとうございました。確かに時間割とかどうするかみたいなことを具体的に考えだすと、いろいろ出てくるかと思えますけれども。防災のこととかですね、一緒にいろいろな活動が動いているというようなことが今のお話でよく分かりました。H委員、今の御発言聞いて何かありましたら。いかがでしょうか。

○H委員 ありがとうございます。何というのですか、今もちょっと悩んでいたのですが、何かこの小規模化教育活動に与える影響、これから小規模によってよくなるから、やっぱり小中一貫校で顔合わせて先生方も大人数で、クラスもできるだけ2クラス以上を確保しながら他の地域と交流して、そういうことが未来像として必要なことという結論に至るのかなと思いがらね、これを見ていて思うのですね。でも、その中でいろいろなハード的な問題やったり、その地域の交通、道路の問題やったりですね、いろいろな解決せなだめな問題が山積みなんだろうと。だけど実際に、この教育、今、小中一貫校を進めていて、僕はメリットの方が多いただろうと何となく思っているのです。これは実際のところ現場の声聞かせていただけて、やっぱり子どもたちが自主的に自分たちで考えながら、また自分たちで計画をしながら自分たちを成長させていく、そういう姿が、どちらかというと小規模化の方がしやすいだろうとか、そこが反比例するというか、相反するそのところをどう整合性を合わせながら子どもたちの環境を整えていくか。そのためにまずハード面、これはもう今日あったようにですね、手すり落ちるようなことが起こらないように、まずハード面から整えていくしかなんだろうと。我々大人がこの先の子どもの憩いの場であり、成長の場であるそこをしっかりと考えて、早くその方向に進んでいけるように努力すべきところなんだと思うのでね。今、現場の声で聞かせていただきました先生方、そこにまあいったら現場でそこで働いているわけですから、せっかくの場ですのもっと御意見を楽に出していただけたら良かったなと思っております。ありがとうございました。

○会長 ごめんなさい。どうもありがとうございました。また手を挙げておられます。ごめんなさい。字が小さくて見えないのですが。新家小学校、お願いいたします。

○新家小学校 よろしくお願ひします。

小中一貫の問題点ということで、先ほど西信達小学校の校長からもおっしゃっていたのですが、僕の肌感としては、小・中のつながりというのは何となくやっていけるような気がするのですね。一緒になっちゃえば何となくそこはうまいことつながっていくような気がするのですが、やっぱり西信達小学校と中学校のように1小1中ならばすごく、そこはすごくスムーズにいくんだらうな。だけど、ほかの中学校区のように小学校が幾つもあると、その小学校を1つにまとめていくという作業が非常に難しいんじゃないかなと。やっぱりそこが大きいというふうに感じます。まず校区が非常に広がること。当然校区が広がれば子どもの通学圏がどんどん大きくなっていく。小学校1年生をどうしていくのか

とか、そういった具体的な問題も当然出てくるだろうし、やっぱり学校それぞれに文化があるので、そこに関わる地域だとか保護者とか、そういう人たちの納得した状態で学校が1つになっていくという、そこまでのプロセスというのが非常に難しいというのを感じます。僕は阪南市にいたときに、ちょうど尾崎小学校と福島小学校が統合したときに関わらせてもらって、それをすごく感じたのです。やはり学校の外にあるいろいろな団体さんがうまく1つになり切れないというようなことで、何回も何回も会議を続けていったというプロセスがあったので、そういったことを踏まえてやはり学校が統合していくというか、1つにまとまっていくことに上手にやっていかないとすごく難しいなというのは思います。だから、小・中よりも小・小のひとまとめというのが今後大きく課題になってくるんじゃないかなというのはすごく感じます。

以上です。

○**会長** ありがとうございます。今の視点すごく大事な視点だと思います。小・中の連続ということだけじゃなくして、小学校同士、中学校区全体としてのまとめ、一体性をどう考えていくかという、そういう視点です。この西信達地区のようなところだと小学校と中学校がすぐそばで、1小1中なのでその辺の観点はあまり出てこないと思いますが、よその中学校区になってきますと複数の小学校があるところはどうするのかということが課題として考えるべきことではないかと思います。もし現場の方から今の問題に関わって何か今考えておられることとかありましたらお受けしたいと思いますが、御意見はいかがでしょうか。何かありますでしょうか。複数の小学校があるようなそういう地域ですね。小中一貫教育をどのように進めていくかということです。はい、お願いします。

○**教育部長** 現場ではなくて失礼いたします。教育部でございます。事務局でございます。

本当に新家小学校の校長先生おっしゃるように、実際の具体的な私たちの再編計画を見ていくとおっしゃるように、1小1中じゃなくて2小1中、あるいは3小1中という校区がございます。そういったところでは当然、先ほど御指摘のように、今まで別々の小学校でやってきたことをまとめていく必要がある、そういう課題はございます。そういうことがあるからこそ、これまでも、例えば私たち泉南市においては、キャリア教育というジャンル、カテゴリー、あるいは小中一貫教育を進めていくという中で、例えば先ほどの一丘中学校長もおっしゃっていただいたように、これまでそういう目指すハタチ像を中学校と、それからその中学校区におられる小学校それぞれで同じハタチ像を目指そうということで、そういったところで統合していこうよと、融合していこうよということの取組を、もうここもこれまで数年やってきていただいているというところがございます。それを今後もっともっと具体的にしていくのは相当難しいという御意見やったかと思うのですが、そういったところの困難さはやはり今後丁寧に学校の先生方とも力合わせて、地域の皆様にも御協力いただきながらやっていくのかなというふうに思っております。具体的には、例えばですけども、泉南中学校区においては我々から見ると英語の担当の先生が中学校におっていただきながらも小学校に同じ方に回っていただくとか、そういうやり方を通じて融合というのを軸にしていろいろ3小学校でも統一的な取組をしていこうよというよ

うな取組をやったりもしておりますので、そういったところ、いろいろなキャリア教育であったり人権教育、あるいは外国語の教育、そういったところを通じて何か軸を作って一緒にまとまっていたらなというふうに考えているところでございます。

以上です。

○**会長** ありがとうございます。そろそろ時間が来てしまって申し訳ないのですが、これはちょっとやっぱり言っておきたいということがありましたら、1つ2つお受けしたいと思います。御意見はいかがでしょうか。大丈夫。じゃあ、もうどうしましょうかね。取りあえずこれは一旦。

すみません。ちょっと運営が不手際で、十分に意見交換ができなかった部分があるかとは思いますが、以上で意見交換会、オンラインの意見交換会は終了とさせていただきます。御参加いただいた皆さん、どうもありがとうございました。

それでは一遍、オンラインの方は閉じますか。

○**教育総務課総務係長** 皆さん、すみません。お忙しいところ御参加いただきましてどうもありがとうございました。以上でオンラインの意見交換会終了いたしますので、退出いただいて結構です。本当にお忙しいところ、どうもありがとうございました。

○**会長** ありがとうございます。じゃあ、オンラインの方は会議室から御退席ください。

どうもありがとうございました。取りあえずこれで意見交換は終了とさせていただきますけれども、資料の会議次第の方を御覧ください。その他について今からちょっとお時間いただければと思います。その他として、資料4で、各小中学校訪問日一覧というのがあるかと思えます。これについて事務局から少し説明いただけますでしょうか。

○**教育部参事兼教育総務課長** どうもすみません。以前からこの学校訪問日、希望日ということをお知らせしておきまして、ちょっと参加の希望というお声も一瞬上がったりしたのですが、結局所用により行けなくなったというような返事もいただいたりして、今現在参加者がゼロという状況になっております。訪問できる日がまだまだ続いていますので、先までありますので、表に書いている連絡期日の日までに教育総務課に御連絡いただけましたら、学校の方と調整させていただいた上でまたアテンドもさせていただきますので、よろしく願います。

以上です。

○**会長** どうもありがとうございます。日程の調整がつくようでしたら、ぜひとも積極的に訪問をしていただければと思います。

次に、次回の審議会の予定についてです。次回の審議会は、今度義務教育学校の視察があります。和泉市立南松尾はつが野学園の視察です。和泉市の教育委員会、それからG副会長、それから私とで日程を相談させていただきまして、6月15日、水曜日、午後1時から実施したいというふうに考えています。開催案内については、お手元に配付してあります。これですね。この義務教育学校の視察についてという資料です。視察の学校までは借上げバスで移動する予定ですので、出欠の御連絡は6月8日までに教育総務課にお願いいたします。連絡先はこの資料に電話番号、ファクス、それからe-mailのアドレスがありますので、そこに御連絡いただきますようお願いいたします。

併せて、この視察先の和泉市立南松尾はつが野学園に対する質問事項についても確認いたしたいと思います。この資料の一番後ろに質問事項記入用紙というのがついています。これに記入いただいて、ファクスを送っていただいても構いませんし、それから e-mail ですね、教育総務課に連絡をいただいても構いませんので、これは5月26日、来週の木曜日になりますが、までに教育総務課に御連絡いただきますようお願いいたします。

以上で今日の予定していた案件は全て終わりということになりますが、委員の皆さんからもし何かありましたらお受けしたいと思いますが、いかがでしょうか。特にないですか。

そしたら、今日の審議会はこれで閉会とさせていただきます。

今日は長い時間にわたって御協力いただきありがとうございました。じゃあ、これで閉じさせていただきます。ありがとうございます。

**16時53分閉会**